

第4回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成28年11月10日(木) 18:30～20:00

場所：境港市役所 第1会議室

日程

1. 開会
2. 平成28年度境港市市民活動推進補助金の審査
3. 協議「若者の行政参加について」
4. 閉会

出席者（敬称略）

石橋文夫 植田建造 遠藤恵子 梶川恵美子 門脇紀文 門脇京子
佐古 廣 徳尾 勝 松本幸永 渡部敏樹 佐名木歩実

欠席者（敬称略）

土田良和

<開会>

（事務局）

本年度、3回目の募集をしましたところ、一般事業に1団体の申請がありました。今回の募集後、まだ約30万円ほど予算残がありますが、次回の募集をしても事業実施期間が十分確保できないことから、今年度の募集については今回で終わりとして考えております。

また審査員の皆様には、事前に書類審査をお願いいたしました。お忙しい中、ありがとうございました。事前審査による申請団体の評価点は、別紙のとおりとなりましたので、ご確認ください。審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正を行っていただき、審査と総評を行いたいと考えています。また本日は審査終了後、今年度の協議課題としております「若者の行政参加」について、協議を行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、本日の審査会の進め方及び審査の視点について説明いたします。

本日の審査ですが、審査員を推進委員の中から3名選出し、地域振興課長と合わせて4名で行います。推進委員から選出する審査員については、こちらからあらかじめ松本会長と相談して決定した委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

※委員異議なし

それでは、審査員を遠藤委員、徳尾委員、門脇紀文委員の3名をお願いしたいと思います。

続きまして、審査の仕方を説明いたします。本日はプレゼンを1団体に行ってもらいます。一般事業の新規が1件となっております。1団体15分で、まず最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの12分間で審査員の方に質疑をしていただきます。その間ですが、審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

団体のプレゼン終了後、18時55分から皆様で討議をいたします。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら1件ずつ採択・不採択・修正の決定を行います。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査会を開催いたします。

それでは、プレゼンに移ります。

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇カニカニマラソン実行委員会

- ・申請事業 第2回境港カニカニマラソン
- ・事業内容 市民の健康増進、青少年の健全育成、境港市の地域振興を図ることを目的に平成29年3月にマラソン大会を開催する。

(委員)

前回の開催時にはお魚まつりの日程と重なってしまっていたのですが、今回は重なっていないでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

前回は日程が重なってしまい、交通渋滞などの一因にもなっていましたので、今回は日程をずらしての開催としております。

(委員)

昨年は私もボランティアスタッフで参加致しましたが、お魚まつりの影響で非常に交通量が多く、県外車も多く、参加者も大変そうでしたが、今回は日程をずらし、交通規制をされるようによかったと思います。交通規制される場合には、代替のルートをきちんと指示してあげないと渋滞の一因になりますのできちんとしていただきたいと思います。

個人的にはこの大会の開催には賛成であり、しっかり人集めをして、将来に繋げていただけたらと思っています。境港から長距離関係の選手がなかなか出てこないというのがありますので、この大会もきっかけにどんどん若い選手が育っていったらと思います。

またいろいろと参加賞があるような内容になっていますがどのような内容でしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

参加賞として市内の施設で使える買物券を考えており、海とくらしの史料館の無料入館券も配布したいと思っており、予算に計上しております。ただし、予算にチラシ代等の予算を今いれておらず、自主財源等の状況によっては無料入館券の配布をしない場合もあります。海とくらしの史料館には昨年も協力いただいております、メインの駐車場は台場公園を借りることとしておりますので、参加者の入館も期待できると思います。

(委員)

地元施設で、参加者にも入館いただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

(委員)

ウォーキングの会で会場となっている潮見町の公園に行きますが、あそこはすごく風がきついです。今回設置される看板は強風対策で足場を固定できるようなものでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

予算上は脚がついた形の看板 30 枚の作成経費となっておりますが、枚数の増加等も考えられるため、看板の枠については自作することも考えていますので、強風の場所については脚がしっかりしたものにして土嚢を設置するなどしたいと思います。

(委員)

そういった対策もしっかりお願いします。また役員名簿を見ると役員に高齢の方が多く見受けられますが、これから長い期間続けていくことを考えたら、若い方を入れていくということも大切だと思います。役員や構成団体を見ても競技団体等が入っていて本格的なものだと思い、期待していますので頑張ってくださいと思います。

(委員)

すばらしい企画だと思います。2 回目の開催が非常に大切に、今後事業が継続していくかどうかの試金石になると思いますので頑張ってくださいと思います。

入賞者の方への景品としてカニを出すとかできないでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

昨年は 8 部門の上位各 3 名にカニを景品として出しております。カニカニマラソンですので景品もカニを全面に出していきたいと思います。

(委員)

3 月初旬に開催ということでまだまだ寒く、雪が降るなどもあるかと思いますが温かい汁物を提供するなど参加者の健康管理に留意いただければと思います。

(地域振興課長)

今回、2回目ということで第1回目の反省を生かして実施されるということは素晴らしいことだと思います。当日参加者やスタッフの安全対策には十分に気を付けていただきたいと思います。目的として地域振興とカニのPRとありますが、先ほど景品でカニを出すという説明がありましたが、そのほかにPR方法というのはどういったことがあるのでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

去年は仮装でカニを着てもらったりしました。今年は会場周辺の直売施設等で使えるお買物券を参加賞として提供していますので、それもPRになると考えています。

また、ロゴマークを新聞で募集して決定しましたので、それもPRの一つとなっていると思っています。

(地域振興課長)

看板の作成など今後の継続を考えて、今回この補助金を使われるということですので、しっかり継続していただき、できるだけ大きな大会となるようにしていただければと思います。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。

(委員)

備品にゴールゲートとありますが、ここまで必要なものでしょうか。

(事務局)

団体よりゴールゲート作成経費はできるだけ抑えていきたいということで、自作を考えていきたいということです。看板の作成経費等が予定より上がった場合には作成しない場合もあるかもしれませんし、予算の範囲内で流動的に対応されると思います。

(委員)

沿道の観覧などは規制があるものでしょうか。

(事務局)

箱根駅伝などのように沿道に人があふれかえるということはないと思いますので、鬼太郎駅伝でもそうなのですが、特に規制は設けなくても常識の範囲内で皆様観覧されると思

います。

(委員)

8 kmのレースに 100 名ほどのボランティアが予定されているということですので、おそらく十分な安全配慮ができると思いますが、十分に留意していただけたらと思います。

(委員)

運営についての意見ですが、企画については素晴らしいと思いますが、マラソンとしては距離が短いように思います。一気に拡大は難しいと思いますが、将来的に大きな大会にしたいということであれば、まずハーフマラソンの距離にするなど拡充を行っていかないといけないと思います。

鬼太郎駅伝は秋、このマラソンは春といった形で開催したらいいと思います。選手が育たないというのは走る機会が少ないということも原因だと思いますので、大きな大会を作って盛り上げていただけたらと思います。

鬼太郎駅伝は竜ヶ山発着ですが、カニカニマラソンは海岸を発着とするなどコースに工夫があるといいと思いますし、境港で大きなマラソン大会ができればと昔から思っていましたので是非拡大に向けて検討していただきたいと思います。

(委員)

この補助金を使うということですので、将来的に拡大していただかないといけないと思います。しかしながらコース設定は非常に難しい問題であり、8 kmのコースでも苦勞されていることと思います。長くするという事は非常に難しいとは思いますが、将来大きな大会にすることを目指していただきたいと思います。

(事務局)

以前他部署で駅伝の担当をしていましたが、コース設定に関しては様々な制約があり、新規のコース設定は非常に難しいものがあります。そのような課題はありますが、委員のいわれるように拡大して行っていただきたい事業でありますので、申請者へお伝えしていきたいと思います。

(委員)

コースに関しては、中海干拓地の周辺をぐるっと回したら10 km位かせげると思いますが、公認コースになるかはわかりませんが、そういったことも考えながら拡大に向けて検討いただきたいと思います。

(会長)

皆様の意見を総合するとカニカニマラソンの名にふさわしい、境港を代表するマラソン

大会になるように拡大してってもらいたいということだと思しますので、その旨を申請者にお伝えいただきたいと思います。

それではこの事業については、採択とさせていただいてよろしいでしょうか。

※委員全員異議なく採択

<市民活動推進補助金審査会終了>

(会長)

それでは、今年度の協議課題としておりました「若者の行政参加」についての協議を行いたいと思います。事務局は説明をお願いいたします。

(事務局)

※資料について説明

本日の協議につきましては、ここで結論を出すというわけではなく、4月のワールドカフェ方式での協議を経て、今後に向けて、みんなでまちづくり推進会議として、どのようなことができるのか、または具体的にどのようなアクションを起こしていけるのかについて協議いただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。事務局から説明ありましたように今日の会議でなにか結論を出すということではなく、「若者の行政参加」というテーマについて、この推進会議としてどういったことを考えていったらいいのか、どのようなことができるのかということ、実現できる、できないは別として自由に議論できたらと思います。

どなたか意見はありますか。

(委員)

先日、市議員と高校生、大学生の意見交換会が行われたということで、Facebookで拝見しましたが大変盛り上がったみたいです。

私たちが若い人に話しかけていかないと、待っているだけでは駄目だと思います。

若い人と話す機会を設けて、新たな意見を求めていかなければならないと思います。

当日、参加された委員もおられますが、参加者の高校生は自主的に参加した生徒たちだったのででしょうか。

(委員)

意見交換会について参加した高校生に聞いたのですが、生徒会の役員などから先生に選抜された生徒が多く、自主的に参加した生徒はほとんどいないようでした。

(委員)

受験まで数か月の時期で特に高校生は参加しづらかった面もあると思います。

(委員)

学校現場は忙しく、いろいろな要望や提案など、このような行事の参加も含めて対応が難しい面があるかと思います。

(会長)

地域と学校の連携が盛んに言われますが、実際には事務作業のすり合わせなど非常に時間を要して難しいというのがあります。

(委員)

中学生など学生を参加させる場合にはテーマなどをしっかりすり合わせしないと参加してもらうのは難しいと思うので、それをしっかり行った上で、積極的に若者の意見を聞いていけないといけないと思います。若者は我々にはない意見を持っていると思いますので、それをきちんと聞いたうえで、それを否定するのではなく、なんとか実現できる方法を考えていけないいけないと思います。

(会長)

議場体験が中学生であったかと思いますが、小学生でやってみても面白いのではないかと思います。とんでもない意見が出て面白いと思います。

(委員)

政治というのは難しいイメージがあるのでまずは形からということで、既にやっていると思いますが議場見学、議場体験はいいと思います。

椅子に座ってみるなど雰囲気を経験するだけでもいい経験になると思います。

(委員)

他の地域でやっていますが、市長に対して質問していく子ども議会のようなものを、学年から何人参加するとかではなく、学年全員が参加した上で、代表何人かが質問するようなことをやってもいいと思います。とても興味を持ってもらえる体験になると思います。

事務局で実現できるかどうか関係部局と協議、検討していただければと思います。

(委員)

税金についてという授業があってもいいと思います。

(会長)

税金については出前授業があり、税務署等から講師が来て行っています。それは国税の話になるので市税の話を市職員等にしてもらった方がいいのではないかと思います。

教わるだけでなく、議場体験など実体験をしていくことで身につくこと、関心を持つことが全然違うと思いますので重要なことだと思います。

(委員)

小学生が水木しげるロードに課外学習に行ったりしており、感じたことなどを学校で話し合ったりしていますが、その場に担当部長や市長が出向いたりして、子どもたちの意見や考えを聞くというのも新しい考えが出てくるのではないかと思います。

(委員)

この前、高校生と市議会議員のワークショップに参加した感想なのですが、高校生は自分たちと政治が遠い存在で関係ないものだと思っているように感じました。テレビも見ないし、新聞も読まない、ネットなどを通じて自分の興味ある情報しか取り入れず、政治は学校で教わったりするものという認識を持った子がいました。政治や行政の自分に降りかかるかもしれない日常問題、ブラックバイトや大学の奨学金の話などから勉強したり、ワークショップのテーマにしていくことで、政治や行政をもっと身近に考えて、意識が変わったり、参加したりするのではないかと思います。

(委員)

若い世代が行政に参加しないというのは、余裕がない、自分のことで精一杯という現状があるからだと思います。そのような状況で政治や行政に関心を持って、参加しろといっても難しいと思います。

そのような中でも関心を持ってもらおうと思ったら、みなさんも今までおっしゃっていますが、学校教育が非常に重要だと思います。家庭教育でも昔はそのような話を多少したかもしれませんが、なかなか難しいと思いますし、地域行事でそのような話もしにくいと思いますので、先生方は大変だと思いますが、学校教育でやるのが適当ではないかと思っています。

議場見学については定例議会を傍聴するだけでもいい体験になると思います。参加人数の問題もあるかと思いますが、何年かかけてでも各学校でローテーションして参加してもいいのではと思います。

(委員)

1年に一回議場見学するだけでは、興味、関心を持ちにくいと思うので、何回か継続的に勉強会をして、実体験として議場体験をするなど、複数回に渡って同じテーマで勉強していく取組が必要なのではと思います。

(委員)

認知症の関連事業を境小学校で行っていますが、教員との打ち合わせを開催までに10回以上行いました。他の行事もあるので教員も忙しく、連絡が夜7時～8時になることもざらです。一つのことをするのに本当に教員が多くの手間をかけて、子どもたちの教育や下準備をしています。

課外体験をした場合、それに割いた授業時間をどこで補うかという問題もありますし、実施するのは本当にいいことだと思いますが、教員の負担を考えると難しい面もあるのではないかと思います。

(委員)

自分の息子が30代で独身なのですが、行政に関心は持っていません。結婚して子どもができて初めて、子育て支援など行政の取組について興味を持って考えるようになると思いますので、まずは自分の子どもの婚活、結婚から取り組みたいと思います。

(委員)

市長と語る会にしても一部の人しか参加されません。普段から地域のイベントに参加するなどそういった活動をしていないと、急に行政に参加しろといっても無理な話だと思いますので、そういった地域活動の参加を促していくことも重要だと思います。

(委員)

他の委員も言われておりますが、教員の方々は本当に忙しくしておられます。そのような中でなかなか学校から出向いていくということは難しいので、例えば市議会議員が各学校に出向いていくといったことがいいのではと思います。そこで、子どもたちだけでなく、保護者も入って一緒に議論していくといったことがまず第1段階としてあってもいいのではないかと思います。

(委員)

当審議会としても補助金の審査だけしていても駄目だと思いますので、このテーマについて掘り下げて、市への提言をまとめていくなどしていかないといけないと思います。

(委員)

子どもたちが今どういうことを思っているのか、どういったものが必要だと思っているのかを聞く機会を設けて、それを市長などに聞いてもらうという取組をしてもいいのではと思いますし、いいきっかけになると思います。

(会長)

いろいろな意見がありました、まとめというわけではありませんが、若いうち、子ども

のうちから自分の意見が聞いてもらえる、受け入れてもらえるという体験をしていくことが重要ではないかというように皆様の意見を聞いて感じました。

今日の協議はここまでとしたいと思います。今後の会の進め方について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今後につきましては、年度内に今回と同じテーマでもう一度開催したいと思っております。今回の協議を踏まえて、議論を前に進めていただけるよう、事務局で提案内容等を準備させていただきたいと思っております。

会長とは事前に協議いたしました。2年間という委員任期の中でころころと協議テーマを変えるよりは継続協議としたほうが良いと思っておりますので、今回の委員任期期間中は同様のテーマで協議等していただき、委員の意見にもありましたが、取組の方向性をまとめ、提言としていくなど、継続協議としていきたいと考えております。

会議開催については、また文書にてお伝えいたします。

(会長)

それでは本日はこれで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

<閉会>